



令和の
里海づくり

尾道東部漁業協同組合

アサリ再生活動を契機とする「里海」・松永湾の再生・利活用に向けたバージョンアッププロジェクト

令和5年度
「令和の里海づくり」
モデル事業成果



地域の概要及び課題

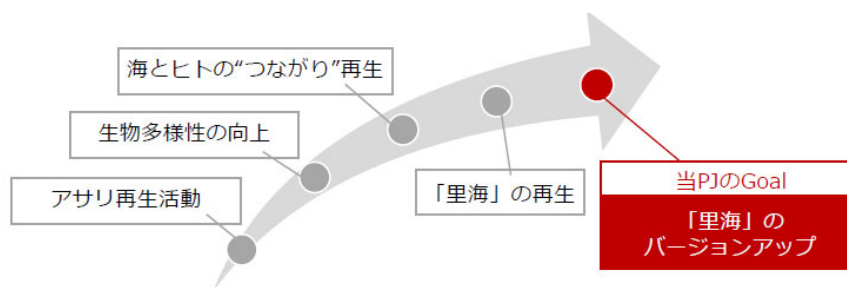
【資源】

- 古くから塩田として開発され、製塩業衰退後も塩田跡地にアサリをはじめ多くの生物が生息する豊かな生態系を形成
- 尾道東部漁業協同組合は多様な水産資源を管理し、地域住民も日常的に食糧採取の場として松永湾を利活用

【課題】

- 宅地造成等による水質悪化、気候変動に伴う水温上昇で特産のアサリをはじめとした生物多様性が減衰
- 漁業者や住民のつながりも希薄となり里海機能も減衰

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン



松永湾
広島県尾道市



R5年度モデル事業における取組内容および成果

アサリ再生サイト造成・再生活動の実施

- アサリ再生サイト造成・再生活動の実施
- 尾道海の豊かさ共同セミナーの企画・開催
- 地元の小学校へへの出前授業、アサリ造成体験
- SNSを活用した情報発信 など



アサリ再生活動の様子



小学校での出前事業



尾道海の豊かさ共同セミナー

【成果】

- アサリの漁獲量2トンの目標を概ね達成見込み（2024年3月に確認）。
- 関与人数50人の目標に対して活動等への参加者は合計83名で達成。

ブルーカーボン事業の検討

- アサリをはじめとした生物の生息状況調査を実施。小学生に松永湾の実態に触れる機会を提供。



【成果】

干潟の生物調査により、本事業実施以前より生物種も増加し、生物多様性の回復に寄与。地域住民にも干潟再生取組や成果を示すことができた。

エコツーリズムの検討

- 尾道観光協会と連携したエコツーリズム商品の検討（検討会開催）



【成果】

観光協会と連携したイベント等を検討し「尾道あさり復活祭」を開催する方向で合意（2024年3月頃にアサリ漁獲量の調査を行った上で判断）。

今後の課題および 取組方針

- 地元住民の関与が限定的であったため、今後も継続的に関与する人員の確保。
- 環境改善に取り組んだ干潟一部のみでアマモ場の再生・保全未着手であったため、対象エリアの拡大。
- アマモ場の再生・保全が未着手でエコツーリズムが検討段階に留まったため、継続的な対応が必要。
- 当漁協の組合員の高齢化を踏まえた人材確保、安定財源確保。